

清河八郎 「西遊草の道」

「元気・まちネット」踏査後半同行記

4

1855(安政2)年に母の亀代を伴って全国を旅した清河八郎は、清川(庄内町)への帰路、山形城下を出発して羽州街道を北上し、馬見ヶ崎川を渡った。八郎は旅日記「西遊草」(東洋文庫)に、そこから三里(12^キ)歩くと天童との間は村々が続いて開けており、右の山間には八郎が少年時代に訪れた名勝の山寺があると書いた。

八郎親子の足跡を検証する東京のNPO法人「元気・まちネット」の踏査隊は、天童市田鶴町の天童陣屋跡を訪ねた。喜太郎稲荷神社と田鶴町公民館の入り口になっている大手門跡に1857(安政4)年の「天童御陣屋絵図」を描いた看板があり、八郎親子が見たのと同時代の陣屋の様子を知ることができる。とはいえず遺構らしいものは残っておらず、天童織田藩主の御殿があった場所にはJR奥羽本線の線路が通っている。

踏査メンバーは、「西遊草」に「利益日本」の痘瘡(ほうそう)天然痘「神」とある東根市の若木神社や、「オオカミの多い所」とされた同市

歴史通じ地域間交流

山形—天童—村山



清河八郎が暖を取った茶屋跡を確認した踏査隊
＝村山市土生田



六田などを経て、村山市橋岡家(江戸時代の本陣で、江戸に入った。八郎親子は橋岡宿で「江戸屋」に泊まった。「庄内藩の定宿で、私の定宿の中でも特に立派な家である」と八郎は書いた。江戸屋旅館は300年もの歴史があったが10年ほど前に廃業した。15代目という村川キヨ子さん(89)によると、今は村山郵便局になっている隣

尾花沢へ
清河八郎
お休み茶屋跡
「鳥海山眺望の地」
標柱
▲橋山
江戸屋旅館
踏査ルート
●若木神社
天童
山形へ

ていた。敷地が広く客室は15もあって掃除が大変だった」と振り返る。キヨ子さんは以前は橋岡に旅館が何軒もあったが、今は一軒もない。街の様子もすっかり変わった」と話す。

清河八郎は橋岡の白鶴山(橋山)を「たいそう美しい」と褒めた。翌朝、江戸屋を出発した八郎親子は、居合神社で知られる同市林崎や金谷を過ぎ、土生田で馬を継ぎ立てた。「土生田から半里進んで左の方に大石田への分かれ道がある。その茶店でしばらく休み、たき火でまた身を暖める」(「西遊草」)。

茶屋のあった場所には今月、袖崎まちづくり協議会歴史部会(平山繁部会長)が「清河八郎お休み追分茶屋」の看板を立てた。2009年秋に標柱を設置したが、説明付きの看板に作り直した。

「大石田に向かう道は『へぐり道』と呼ばれ、最上川の河岸につながっていた」と平山部会長。追分には「右秋田左おおいだ」と彫られた江戸時代の追分石が置かれていたが、道路整備で撤去され、上下三つに割れた真ん中の部分が残っているという。

歴史部会は09年6月、土生田の別の場所に「イザベラバード・清河八郎 鳥海山眺望の地」の標柱も設置した。清川の住民らが土生田を訪れ、八郎について語り合うなど歴史を通じた地域間交流が生まれている。

(文)鶴岡支社・伊藤哲哉、写真1同・色原高等

山形新聞
2012年11月27日
に掲載!